

「お金に愛されないエンジニア」のための新行動論（2）：

# 定年を自覚したエンジニアがひねり出した“投資のHello Worldアプローチ”

<https://eetimes.itmedia.co.jp/ee/articles/2204/28/news048.html> [PDF出力]

定年がうっすら見えてきたエンジニアが、なりふり構わず「お金／投資」について勉強するシリーズ。今回から、「何でもいから、1万円で金融商品の一つ買ってみよう」という戦略、名付けて“Hello Worldアプローチ”を実践していきます。

2022年04月28日 12時30分 更新

[江端智一, EE Times Japan]



今回のテーマは、すばり「お金」です。定年が射程に入ってきた私が、あらためて気づいたのは、「お金がない」という現実でした。2019年には「老後2000万円問題」が物議をかもし、基礎年金問題への根本的な解決も見いだせない中、もはや最後に頼れるのは「自分」しかいません。正直、“英語に愛され”なくても生きていくことはできますが、“お金に愛されない”ことは命に関わります。本シリーズでは、“英語に愛されないエンジニア”が、本気でお金と向き合い、“お金に愛されるエンジニア”を目指します。⇒[連載バックナンバー](#)

「真実の一つ！金（かね）だ！」

[前回](#)の最後のシメとして、

まとめます。新連載のコンセプトは、この一言です。

「真実の一つ！金（かね）だ！」（by ジェイムズ君（エロイカより愛を込めて））

と述べましたが—— これギャグではなく、結構、マジな話なのです—— 私の中では。

先日、資料を探しに、巨大書店（コーチャンフォー）に行ってきた、その書架を眺めていて思ったことは、「つまるところ、『お金』だよなあ」と実感したことです。

もちろん、そのアプローチに意義があったり、楽しかったり、学ぶこと自身が目的であったりすることもあると思いますので、『全てがお金のため』と考えるのは乱暴であることは理解しています。

しかし、「マーケティング」「IT」「英語」「自己啓発」が何のために必要になるか、とえば、それは、「お金を獲得する手段」であることも確かです（ただ、「ダイエット」や「婚活」

については、お金の直結しているかという点、ちょっと「？」という気もしますが)



## 「真実の一つ！金(かね)だ！」

### 大きな本屋の書架の前で考えてみた

分野	概要	何の為に
マーケティング	売れる仕組みを作ること	仕組みが動くことで利益を得るため
起業	新しく事業を起こすこと	事業によって利益を得るため
自己啓発	自力で自分の能力を高め、心の成長を目指すこと	自分をスキルアップして、収入を得るため
ダイエット	減量すること。また、それによって、外観を良くすること	健康と美容によって、自己の価値を維持・向上するため
婚活	結婚相手を探す活動のこと	同居・協力・扶養、貞操の義務によって、相互利益を得るため
IT	情報技術のこと	計算・通信の効率化によって、コスト削減して、利益を得るため
英語	デファクトスタンダードの世界言語のこと	国際的にコミュニケーションを円滑にして、利益を得るため

## アウトプットは、概ね「お金」と可換なもの

物事の価値を計るものさしとして、「お金」は便利な道具概念ですし、そもそも、お金はライフラインです。そして、私は、定年後、労働力として価値が下がる（無くなる、とまでは言いたくない）ことが確定しています。

**お金を得ることそのものを、直接の手段にしなれない** —— 追い詰められたシニアは、今さら「マーケティング」「IT」「英語」「自己啓発」などの『間接手段』に費やしている時間はないのです。

と言い切ってみたものの、どうもそれも釈然としません。私は、英語やプログラミングを、お金を得ることだけを目的としてがんばってきたのか、と自問すると、それはそれで納得できないのです。

これは、与えられた機会の問題かな、という気がします。海外に送り出される機会があれば、英語は必須の道具ですし、仮説を数量で検証する時に、プログラミングは、最速の検証手段です。

もし私が定年（あるいは健康や体力の問題）を理由に、「機会を奪われない」のであれば、「マーケティング」「IT」「英語」「自己啓発」は、相変わらず有効な技であり続けるはずで

す。

定年とは、「機会を失う」ということに、他ならないのです——が、本当に定年によって、私たちは「全ての機会を失う」ことになるのでしょうか？

### 「無収入の第二の人生」 一歩手前

こんにちは、江端智一です。『「お金に愛されないエンジニア」のための新行動論』の第2回目です。今回も、定年がスコープに入ってきた私（江端）の、なにふり構わない日々をご紹介しますと思います。

さて、定年、退職、リタイア……と、このコラムでは似たような言葉が、いろいろ出てきて紛らわしいので、言葉の意味を以下のように決めておきたいと思います。

退職……私が、勤めている職を辞めること。会社と私の雇用契約が終了すること  
定年……私が今勤務している会社を退職する決まりになっている年齢のこと  
年金生活……収入を得る業務を全て停止して、年金のみで生活すること

私の場合、退職≒定年ですが、今から定年後生活の準備を始め、また100%の年金生活に入ったとしても、なんらかの形でジタバタし続けなければなりません。で、—— おいおい、ちょっと待てよ、**まだ就労期間の半分相当の期間を生きなければならないぞ** —— と気がついたのです。

## この連載の意義

今から、死亡に至るまでの時間を改めて考えてみた



ここから、意外に長いぞ —— 就労期間の半分

世間で評判の悪い「前期高齢者（65歳～74歳）」「後期高齢者（75歳～）」という用語ですが、私、父と母の介護と、最期をみとって、あの言葉の意味が分かりました。

前期高齢者とは「日常生活ができる（可能性の高い）高齢者」であり、後期高齢者とは「寝たきりになる（可能性の高い）高齢者」という意味です。

私も、いずれは認知症となり、被介護人となり、どこかの病院のベッドの上で死に至ると思います\*）。キーボードから文字を入力することができなくなる、その時を、ざっくり後期高齢者となる75歳と仮定したとしても、**それでもまだ20年近い年月が残っていることになります —— 無収入の第二の人生**です。

\*）連載一覧「[江端さんのDIY奮闘記](#)」

結構、軽い気持ちで始めた連載だったのですが、よく考えれば、これ、**学生さんの「就活」や、パートナー探しの「婚活」に匹敵するほどの、巨大テーマ**だったことに、今更ながら気が付きました。

なんでこんな重大なことを、ちゃんと私に報告してくれなかったんだ！ —— と思ったのですが、よく考えれば、政府は散々警告してくれていましたね、あの例の「老後2000万円」の問題などは、その一環と言えましょう。当時、世間では『将来の年金制度廃止への布石』と捉えられて、大炎上しました。

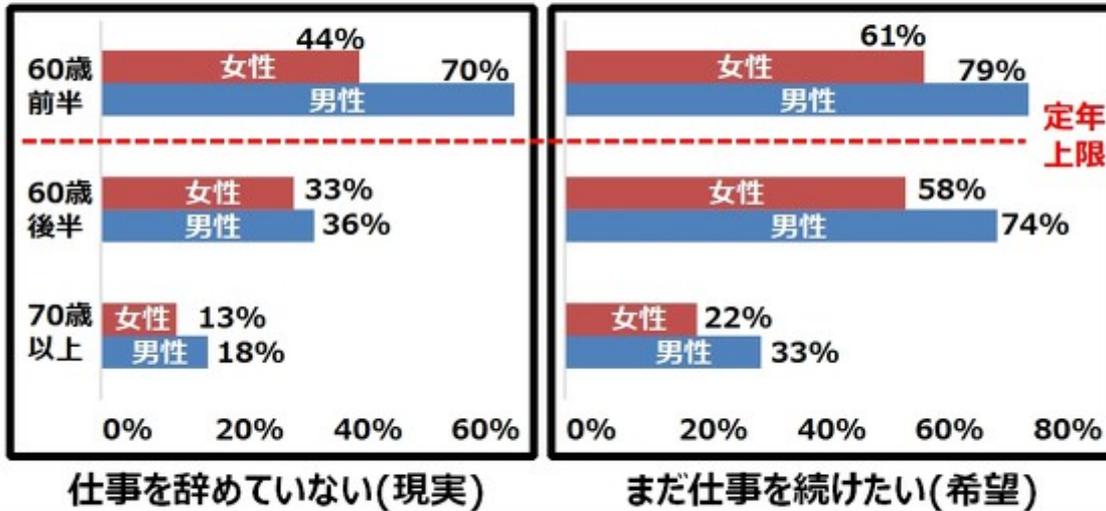
ただ、定年後の期間の生存戦略に、「就活」や「婚活」に相当する“用語”が存在しないのは、なんとも釈然としません。「定年延長」が、それに相当するかと言われると、しっくり来ない感じ。つまり、わが国には、定年後のシニアの受け皿の考え方が確立していないように思われます。

『定年後にまで働きたくない』、という人もいるかもしれませんが、**日本人は、「働くのが好き」**です —— というか、わが国は、世界でも珍しい「働きたいシニア」が大量に存在している国です。

# 仕事を辞めていない/辞めたくない人

## 日本は世界有数の「仕事を辞めない人」の国

[https://www8.cao.go.jp/kourei/ishiki/h27/zentai/pdf/kourei\\_4\\_ikeda.pdf](https://www8.cao.go.jp/kourei/ishiki/h27/zentai/pdf/kourei_4_ikeda.pdf)



## 定年後でも、働ける人は、働いている

図中の[参照先](#)

各国との比較は割愛しますが、先進国では間違いなく世界第トップクラスの「働き続けたい国民性」の国であることは間違いありません。

主な要因は、将来への金銭的な不安が大半だと推測できますが、私のように、「ヒマしていると、死にそうになる\*）」という人間もいるでしょうし、あるいは「社会から必要とされている実感を得たい」と考える人もいます。

\* ) 関連記事「[デジタル時代の敬老精神 ～シニア活用の心構えとは](#)」

### 江端の定年後のビジョン

では、私（江端）の定年後のビジョンが、どのようなものであるかを、書き出してみました。

# 江端が腹をくくっている定年後のビジョン

“これ”といった希望はない

分野	予想図	
衣食住	持ち家があるので、『屋外でのたれ死ぬ』心配はなさそう	但し、家のローンは残っている
	10年でも同じ衣服を着続けられる	『着れる』が、嫁さんが『切れる(怒る)』
	「もやし炒め(コスト50円)」を10日間連続でも楽しめる	「調理」とは「システム開発」である、という信念あり
生活	外出(観光等)しなくても大丈夫な性格	コロナ禍の外出自粛生活は、なかなか、リアルなシミュレーションとなった
	「ひきこもり」は、苦痛ではない(むしろ得意)ことが分かった	
嗜好	金銭や異性は物品(自動車、衣服、装飾品)に、興味も、見栄もない	マウント取るなら、「知識」とか「技術」とか「ロジック」の方向で
希望する老後ビジョン	毎日、おいしく御飯が食べられて、「痛い」と「苦しい」が「ない(少ない)」こと	「痛い」「苦しい」だけは、絶対にゴメンである
	Amazonで、本と、PC周辺装置が購入できる程度のお金の自由があること	欲しいのは、「自由度のある小金」
	リタイア前の知識や技術を使って働いていて、「役に立っている」と実感できること	他人に「過去の私の栄光」を語るのではなく、「現在進行形の自分の実績」を、披露し続けたい

どっかの施設で、自分が壊れ始めるまでは、  
できるだけ、このまま ——

衣食住に関しては、命を維持できる以上のことを望んでいませんし、今回のコロナ禍の外出自粛の日々において、私は他の人より「ひきこもりが得意」であることが分かってきました —— 少なくとも、他人とF2F (Face to Face) のコミュニケーションができないことに対して、『我慢の限界』などという気持ちに至ったことは一度もありません。むしろ、仕事が捗ったくらいです。

無欲ではありません。しかし、金銭、異性、物品などに対して、他人と競い合う気持ちは、少ないように思えます。知識や技術を取得したいとは思いますが、それは、自分の満足のためであり、他人に対してマウントを取りたいという気持ちは、少ないと思います(私をディスる意見を吐く奴は、論破してつぶしたいとは思いますが)。

私の定年後のビジョンは、「(1) 苦痛を回避し続けること」「(2) 自由に使える小金があること」「(3) (過去の栄光ではなく) 現在での『社会のお役に立っている』という実感」の3

つ、と思っています。特に(3)については、「まだ『社会のお荷物に』にはなっていない」という実感を持って生きたいと考えています。

## これから30年、世界はどう動く？

さて、ここで私は、私が死去するまでの、ざっくり30年間で世界がどのように動くかについて、予測してみました。

### 江端の未来予想図

#### ただし、江端の死亡までに限定した予想

分野	予想図	
世界経済	当面、「米国主導」の世界の経済は回るだろう	ここ30年くらい、米国、中国、ロシアで、適度に「三国志」を続けてくれればいい
日本経済	当面、日本が「デフォルト」することはないだろう	デフォルトする時は、『日本と一緒に死んでやる』くらいの気持ちはある
江端経済	日本が「デフォルト」しない限り、私の年金は大丈夫だろう	年金の「条件」は悪くなっていくだろうし、金融も色々「混乱」はあるだろうが、全滅には至らんだろう

### 私が死んだ後のことは、知らん

まず、世界経済ですが、あと30年くらいは、米国主導の経済圏を中心として回ると思います。一方、中国は、予想を越えた規模とスピードで経済圏の拡大を続けていますし、わが国は、中国からの輸入なしでは、かなりヤバい状況です。

2021年の、わが国のカロリーベースの食料自給率は37%で、世界全体を100%とした時の先月の中国からの農作物の輸入額の比率は、46% (=3.66兆円÷7.86兆円)です。(カロリーと金額では比較する単位が違いますが)。中国と戦争になったら、ざっくり『食卓から、3割程度の食物が消える』と考えて良いかと思います。

わが国は、米国、中国ともに正面切ってケンカができない立場ですので、**現在のこの状況が30年程度続いてくれることを“祈る”**しかありません。

あと心配なのが、日本国の財政破綻(デフォルトを含む)です。これは長期的には避け得ないかもしれませんが、**ここ30年では起きない**と踏んでいます。なぜかという、日本国の国債購入者のほとんどが、日本人(正確には、日本国内の銀行)であり、海外投資家による日本国債の保有割合は13%程度であるからです。

日本人の日本国債の所有者(民間の銀行)は、自分のお金で、自社株ならぬ日本株——国債——を買っているみたいなものです。そして、その支払いは、株式会社日本国から支払われるお

金がベースになっている訳でして、つまるところ、日本国内で、お金がグルグル回っているだけに見えます —— 日本国の借金は、私たち国民の預金です。

日本経済が心配→下々（民草）が借金に走る→銀行にお金があつまる→日本国債を銀行のお金（実質は私たち（のお金））で買う→日本の赤字が累積する→日本経済が心配→下々（民草）が……のループですね。

あまり健全な（というか、幸せな）ループではなく、「良くないグルグル」になっています。

ところで、めちゃくちゃ簡単な赤字国債の返済方法があります。言われれば「あ。」というようにことなのですが、円をバカスカ印刷して（古い言い方で、『プリントゴッコする』といいます）、それを借金の返済に当てればいいのです。

わが国は、借金している当事者が、お金を印刷する当事者でもあるのです（厳密には、日本国政府と日本銀行は独立した組織ですが、同じ日本国内の組織です） —— ふざけた話のように聞こえるかもしれませんが、これは事実です。

ただ、上記の円の「プリントゴッコ作戦」は、円の価値の低下を招き、国内外の国債の信用も低下させてしまうので、簡単には切れないカードです。ただ、わが国は、**たった1日で借金を帳消しにできる、最後の手段**を、まだ保有しているのです。

まあ、この手の話が、常時炎上のネタになっているのは知っていますので、私は参戦しません。ただ、少なくとも**ここ30年に限定すれば、『この最後の手段の発動もないだろう』**と踏んでいます。

さて、最期に、私個人の経済 —— 江端経済です。基本は「**年金を当てにしても大丈夫**」がベースです。

もちろん、年金の条件は、日々悪くなっていくと思いますが、今や、少子高齢化のわが国において、**圧倒的マジョリティーであるのは高齢者**です。つまり、私たち高齢者を敵に回すような政権は、存在できないのです。年金制度の崩壊は、現存の政府与党の崩壊を意味します。そして、民主主義は「多数が正義」が原則です。

私たちシニアの既得権益が、わが国を少しずつ崩壊させているのは知っています\*）が —— **それは、私の知ったことではありません**。私の死後であれば、日本国が崩壊していようが、全く構いません。私の2人の娘だけには、申し訳ないと思いますが、私は、日本国の財を食べ尽くして逃げる「食い逃げ」ならぬ、「**死に逃げ**」を予定しています。

\*）[筆者のブログ](#)

以上、多分に私の願望が入っていますが、取りあえず、このコラムでは（1）世界経済、（2）日本経済、（3）江端経済の3つに関して、『**現状が30年間続く —— 革命とか、戦争とか、デフォルトが発生しない日本**』を“願望”とした未来を前提とします。

「デフォルト」って何？

ところでギリシャ危機（2009年10月）ですっかり有名になった言葉に「デフォルト」というものがあります。この言葉、やたらといろいろなところで使われているのですが、どうにも意味を

つかみかねていたもので、今回、キチンと調べてみました。

ギリシャ危機とは、2009年10月に起こった、ギリシャの経済危機を指します。政権交代の際、旧政権により財政赤字が隠蔽されていたことが明らかになったのです。財政赤字がGDP比で5%程度とされていたが、実際は13.6%であることがバレました——って聞いても、私、よく分かりませんでした。

日本の財政赤字（対GDP比）では、6~10%で推移しており、2021年度なんか21.2%でした。「ギリシャって、うち（日本）より、マシじゃね？」と思いました。ただ、ギリシャの（国債の）借金先が、ギリシャ国内の国民ではなくEUなどの他の国だった、という点が決定的に違います。ギリシャは、日本のような「良くないグルグル」の仕組みはなかったのです。

デフォルトを、一言で言い切れれば「借金を踏み倒すこと」です。もっと具体例を上げれば、『10年後に利子を付けて返す予定だった国債（の証書）をいただいても、お金が返せません』と宣言することです。

## 『デフォルト』とは何か

### 日本の借金を、日本が払えなくなること

用語	一口説明	その他
日本国債とは	日本国が発行する『借用書』のこと	利子が付く、日本で超安全・超確実な投資の一つ
デフォルトとは	『借用書』に記載の返済が行えなくなること	(国内だけでなく、世界中に) 日本の面子丸潰れ→信用ガタ落ち →国内外のビジネス停止へ
デフォルトしたらどうなる？	「支払えなくなる」ので、「支払わない」だけ	普通は、自国の通貨の価値を下げて対応する(通貨切り下げ) 例:1\$ = 120円 → 1\$ = 1200円 になるくらい紙幣を刷りまくる →これで、「借金」は払える →ただ、円の価値が大暴落するので、返済されても大損となる

**借金を踏み倒すだけで、  
日本が地上から消滅する訳ではない**

ただ、私たちの日常の借金（の踏み倒し）と、国の借金（の踏み倒し）では、ちょっと意味が違うのです。

私たちの借金の踏み倒しに対するイメージは、反社勢力がでてきて、「風俗で働け！」「臓器を売ってこい！」のイメージですが、国の借金の踏み倒しの基本形は「開き直る」です——**無い袖は振れないから諦めてくれ**、です。

調べた限りでは、「自衛隊の半分を米国に売却しろ」とか、「北海道をロシアに売りに出せ\*）」とか、「トヨタの全工場を中国に売り払え」とか、そういう話にはならないようです。

#### \*）[筆者のブログ](#)

デフォルトしても、突然、太平洋戦争直後のように、都市が廃虚になる訳でもないし、国民が奴隷商人に売買される、ということになる訳でもありません。デフォルト後も普通の生活が続きます。

一方、デフォルトが起これば、ハイパーインフレになるかもしれないと心配されている人はいるようです。最悪のケース（物価が130倍程度）としては、駅前の立ち食いそばが、一杯4万円になるイメージですね。当然、貯金も紙くずになります。

他方、そのようなハイパーインフレになる前の段階で、市場に貨幣が流通するので、逆に経済が活況になって好景気になるはずだ、という人もいます——私には、分かりません（繰り返しますが、私はこの議論に参入しません。絶対に巻き込まないでください）。

私の見解としては、「良くないグルグル」があって、最後の手段に「プリントゴッコ」が発動できるわが国においては、デフォルトを心配する必要はないように思えます。ともあれ「**定年後30年間は何も起こらないことを、ひたすら祈る**」という、私の基本姿勢に変わりはありません。

#### 「お金に愛されないエンジニア」を救済するコラムではありません

さて、この連載「「お金に愛されないエンジニア」のための新行動論」の執筆方針をまとめてみました。注意していただきたいのは、この連載は、「**お金に愛されないエンジニア**」を救済するコラムではない、ということです。

# 「お金の愛されないエンジニア」の江端とは

## どう取り繕ったところで「平凡なシニアエンジニア」

観点	一口説明	その他
定年後に不安満載	定年後の人生ビジョンがない	できるだけ行動せずに、ヌクヌクと定年後を生き抜き、死にたい 一方、『暇だと死にそうになる』という厄介な特性も持つ
金融素人	金融、投資については、全く分からない	「今頃になって、なにジタバタしていやがる」だの、「これまで、山ほど警告を受けてきただろう」などの批判は、折込済み
時間がない	のんびりと勉強している暇はない	<b>定年が、すでにカウントダウン</b>
幸運が期待できない	助けてくれそうな人や制度が、見当らない	助けてくれる人は、大歓迎です <b>但し、宗教/スピリチュアル/自己開発セミナー等の関係者は御遠慮下さい</b>

**若くて、時間があって、未来に希望のある人は、対象外です**

この連載が対象としない方は以下の通りです。「若くて」「まだ時間がたくさん残っていて」「未来に希望がある」—— **私は、あなたが嫌いです\***）。

### \*）[筆者のブログ](#)

『若くなく』、『楽しいことがなく』、そして、『今後もそのような予定が1mmもない』皆さん。**私たちは、仲間です。**私とともに、自虐と、自嘲と、卑屈の海の中で、無感動に漂い続けましょう。

で、これらの考え方をベースとした、このコラム連載の執筆方針は以下の通りです。

# 「お金に愛されないエンジニア」の執筆方針

## 金融、投資、100%素人江端の、ドタバタ体験記

方針	具体例	その他
あれこれ考えない	考える前に動く	「失敗」は折り込み済みで、動く
		私の「失敗」は、読者の利益になる(と信じる)
		「円安」だの「円高」だのを、『動かない』言い訳にしない
「モノマネ」から入る	先人の実施事項を、実直にトレース(後追い)する	たとえ10年間考えても、方針なんか見つからない
		ただし、必ず、自分が納得すること(間違っ理解でも構わない)
「やり方」に拘わらない	コンビニの980円本を使い倒す	980円の本でも、私(江端)の知識量よりは、マシ
可能な限り、手を抜く	今使っているネット銀行を変えとか、面倒	手数料とかによっては、今後変更していくかもしれない

## 失敗上等！

このコラムは、お金に愛されないエンジニアである江端が、これまでにやったことのない新しい行動を起こして、その経過を皆さんに読んでいただく、というものです。ぶっちゃけて言えば、「江端の、江端による、江端のための記録(ログ)」で、ターゲットの読者層は、江端または、江端と近い立場にいる皆さんです。

そもそも、(1) 知識がないのだから、考えるだけ無駄。(2) そもそも、全く知らないことを始めるのであるから、「人マネ」くらいしかできないことがない。(3) 投資・金融に関しては、どんな内容でも、「980円の投資入門の本」でも私の教師です。とはいえ、あまりいろいろなことをやろうとすると、頭がパンクしそうになるので、(4) できるだけ現状の環境を変えずにやっ払いこう、と思っています。

つまり、これまでの連載 —— 人工知能<sup>\*1)</sup> だの、英語<sup>\*2)</sup> だの、制御LAN<sup>\*3)</sup> だのについて、『分かった風に言っている奴は、どっからでもかかって来やがれ』のように、マウントを取りに行くスタイルではありません。

\*1) 連載一覧「[Over the AI —— AIの向こう側に](#)」

\*2) 連載一覧「[「英語に愛されないエンジニア」のための新行動論](#)」

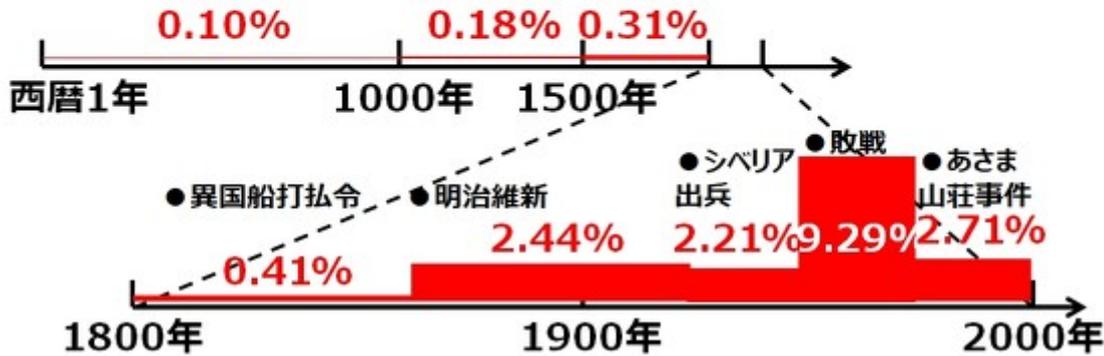
\*3) 連載一覧「[江端さんのDIY奮闘記 EtherCATでホームセキュリティシステムを作る](#)」

ところで、ちょっと横に逸れますが —— ここ2000年くらいのわが国を振りかえってみると、基本的に日本は、経済成長を続けています。江戸時代だって、初代将軍から最後の将軍までの治世を比較すると、2.8倍程度に生活水準は向上しています(江戸時代は、265年間続いたので、 $(1+0.0041(0.14\%))^265$ )。

# 既出:ここ2000年間のGDP成長率

ここ150年くらい異様に高い成長率を続けている

[http://www.ggdc.net/maddison/other\\_books/HS-8\\_2003.pdf](http://www.ggdc.net/maddison/other_books/HS-8_2003.pdf)



それをもって、『江端の残り30年間は安泰』という根拠には（全く）なっていないのですが、気休めくらいにはなるかなあ、と思っています。

閑話休題。

## 投資を学ぶための“Hello World アプローチ”

「それにしても、どこから手をつけたものかな」と考えました。前述した通り、私は、素人で、潤沢な時間ありません。大学の経済学部や経営学部に入り直すような、お金も時間もありません。

『とすれば、アレしかないな』と、当りを付けたのは、「コンピュータ言語」の履修メソッドです。私、BASIC, Pascal, C/C++, Python, JavaScript, Golang、その他の、コンピュータ言語のバイリンガルです。

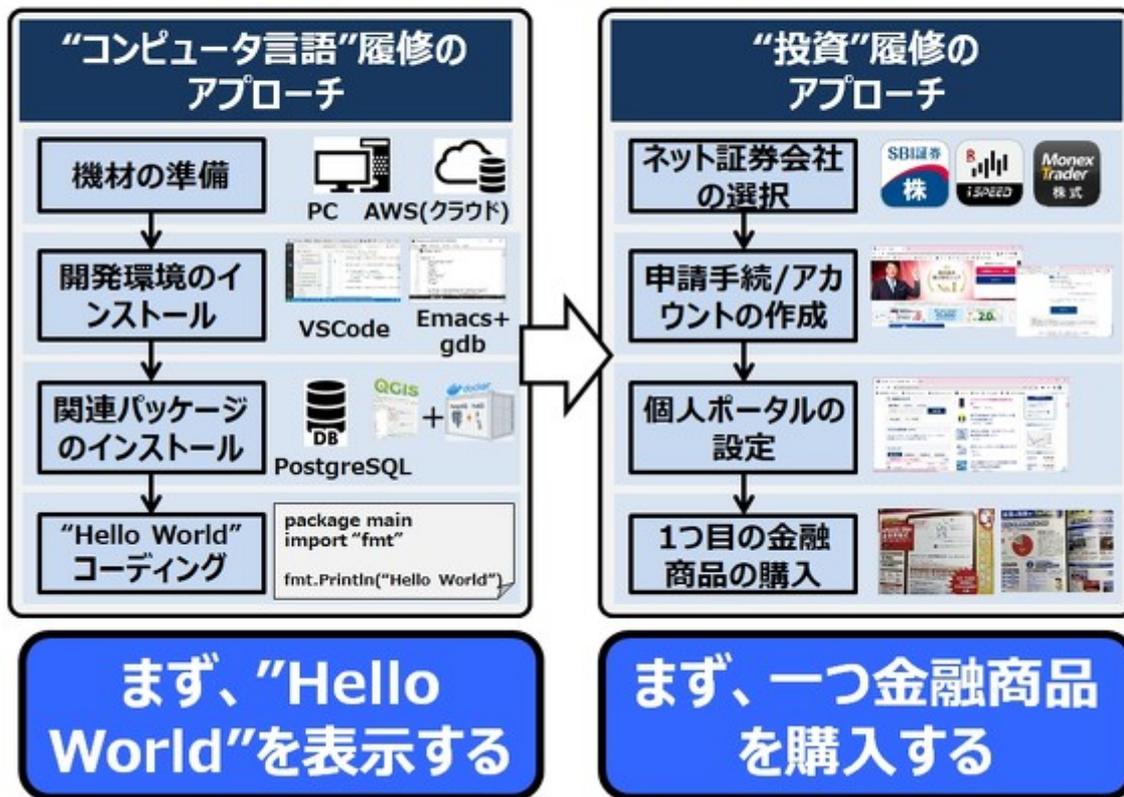
そして、コンピュータ言語を履修する時、はっきり言えることは「**教本を何冊読んだって無駄である**」ということですよ。

コンピュータ言語を履修する最短の方法は、とにかく、パソコンのディスプレイに“Hello World”の1行を表示することです。これは、プログラミングの業界にいる人なら誰でも知っている“**Hello World アプローチ**”です（勝手に命名しました）。

なぜ、この「たった一行の、“Hello World”の表示が大切なのかと言えば、そこに至る経緯こそが、貴重な財産（知見、経験、ノウハウ）になるからです。

# コンピュータ言語履修メソッドをパクリ

## 別名、“Hello World”アプローチ



“Hello World アプローチ”をスタートするためには、まず、機材を準備しなければなりません。少なくともパソコンは必要となりますし、場合によってはクラウド（AWS等）の契約も必要かもしれません。当然、そのための各種の設定もやらなければなりません

ここで大切なことは「自力でやる」ということなのです。もちろん、教本を読んでもいいですし、人にしてもらってもいいですが、「丸投げ」してはダメです。実施する主体は、必ず自分自身でなければなりません。なぜなら、プログラミングの目的は「書くこと」ではなく、「動かすこと」だからです。

これは私の所感なのですが、最も大切なことは「ジタバタする」ということなのです。

うまく動かないと、いろいろなことを試みますよね。で、その大半は、無駄なことだったり、下手すると、プログラミング環境を全部壊しちゃったりすることもあるのですが、そういうジタバタを続けることで、教本から得られない多くのことを、獲得していくことができるのです。

もちろん、開発環境のインストールや初期構築もしなければなりません。これもGoogle検索使い倒して、世の中の「先行失敗者の皆さま」のメモに助けをもらいながら、なんとか成し遂げます。

例えば、右のコピペは、私のホームページ（WordPress）で、リアルタイムで読まれている記事の一覧ですが — **私のコラム（日記）など、誰も読んじやいない。**

私のホームページで、PV（ページビュー）をせっせと稼いでいるのは、「**開発環境構築やらプログラミングに関する、私（江端）の失敗メモ**」ばかりです。

これでお分かりかと思いますが、私は失敗先行者として、このソフトウェアの世界で価値を認められている人間なのです。

そして、

- (1) 失敗事例は、成功事例よりも、
- (2) 未完成の設計メモは、完成した設計仕様書よりも、
- (3) コメントが撒き散らされた汚いコードは、キレイに整理されたコードよりも、



## 圧倒的な価値がある

のは、明らかなのです。それは、これらの先行失敗の事例こそが、世界中で同じように「ジタバタ」している多くのエンジニアを助けているからです。

“Hello World アプローチ”のゴールは、“Hello World”を出力するプログラムを書いて、動かすことです。しかし、はっきりいって、“Hello World”のプログラムを書くための下準備のコストと、“Hello World”のプログラムを書くコストの比率は、“99:1”とか“999:1”くらいのイメージです。

さて、これを、この連載を始めるに際して、私が「最初のゴール」としたのは、「**なんでもいいので、証券会社から、金融商品を1つ買ってみる**」です。どの商品のリターンが高いとか、リスクがあるとか、インデックス型だの、アクティブ型だの、日経平均だの、ダウだの、そんなことは、今は全部忘れます。

まずは出かけることです。定年前のシニアの、たった一人の「はじめてのおつかい」です。

## 980円の投資本を買ってみた

最初の私の行動は、コンビニに行くことでした。そして、そのコンビニで「**ほったらかし投資**」という、キャッチーな言葉に引かれて、980円の一冊のテキストブックを購入しました。

そのテキストブックには、「SBI証券」「楽天証券」「投資信託」「NISA」「iDeCo (なぜ、小文字と大文字を交互に入れる？ 面倒くさいな)」「インデックス型」「アクティブ型」だの言葉が散乱していました。

## —— なるほど、全然分からん

分からんけど、多分、「SBI証券」「楽天証券」は、金融商品を購入するための代理店だろう、と当たりをつけて、今度は、これをキーワードとして、ネット検索をしてみました。その結果、どうやら、この2つの証券会社が、ネット証券の2大巨頭である、ということが分かってきました。

『うーん、よく分からんが、この2つのネット証券会社が“Python”と“JavaScript”のようなものか』と考えました。

ところで、プログラム言語の選択において、最も大切なことは、「人気があること」です。「人気がある」とは、一言で言えば、本屋の書架を占めるほどに教本の冊数が多いということです。本の冊数が多いということは、利用者も多く、多くの先行失敗者や、失敗メモが、そこらに転がっている、ということです。

どの世界においても、数が多い方に乗るのが勝利条件です。プログラミングにおいても、ネット証券取引においても、「多数派に阿（おもね）る」が正解です。

## 証券用の口座を開設してみた

さて、どちらをメインにするか判断できなかったのので、私は「SBI証券」「楽天証券」の両方の口座開設の手続をしました。口座開設そのものは無料で、取引手数料もおおむね同額でしたから。

ただ、980円本には、簡単（ラクラク開設、等）に解説できると書かれていましたけど、私には、結構面倒くさくて、つらかったです。

# まずは、口座開設

## SBI証券、楽天証券の2つで口座を開いてみた

項目	SBI証券	楽天証券
特徴	我が国のネット証券の2大巨頭	
口座開設費用	無料	
国内取引手数料	同額	
江端 所感	本人証明 手続	スマホによる撮影で、何回もやりなおしを命じられた→結局、ファイル転送 (特に問題はなかった)
	履歴	自分や、会社のことを根掘り葉掘り聞かれた(資産の額とか、正直、答えたくなかった) 『根掘り葉掘り』というほどでは、なかったかな
	口座開設 の動機	正直、『うんざり』するほど、質問された 『ほどほど』に質問された
	最終認証	郵便物でパスワードが届いた ネットの手続だけで完了した
	所感	背広とネクタイで、バッチリ決めた人に、キッチリ面接されたような気分

まさか、開設の動機に『コラム執筆のため』とは、記載できないし・・・

2つを比較すると、口座開設手続は、SBI証券の方が、より面倒くさかったように思えます。特に質問の数が多く、『答えたくないこと』が山ほどあって閉口しました。

さらに、SBI証券は、その手続において、郵便物のプロセスが入ってくる点が面倒くさいと思いました。とはいえ、お金を扱うネットサイトなのですから、その位厳しいのは、むしろ安心とを感じる人もいます。これらの手続きをイメージで語るのであれば、**SBI証券=背広+ネクタイ**、**楽天証券=シャツ+Gパン**といった感じでした。

総じて、どちらのネット証券も、文言が怖かったです —

「同意しました□（←チェックボックス。チェックを入れなければ進まない）」

「確認しました□」

「内容を理解しました□」

——って、あの膨大なページの呪文が記載されているPDFファイルの内容を読んで理解しろと？無理です。

## 口座の開設は結構面倒

「同意する」「承認する」「確認しました」の嵐



けっこう厳しい言葉で、  
覚悟を迫られる

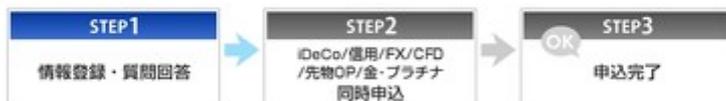
証券会社としても、『確かに読んだよね？』と、一つ一つ確認しないと、処理を進められないことは理解できるのですが——私は今回、『連載』というミッションを背負っているから、腹をくぐれましたが——、途中でやめてしまう人もいないかなあ、と思いながら、ボタンをポチポチ押し続けて、処理を進めました。

そして、はっきり聞いてくるんですよ — おい、お前、今、ナンボ持ってんや。言うてみ、って。マジですよ。

## 結構、グイグイくるなあ

### 「おい、お前、今ナンボ持ってんや。言うてみ」

投資に関するご質問



※ご投資の経験については、他社でのご投資経験も含めてご登録ください。

必 投資の方針	選択してください	
必 主たる資金の性格	選択してください	
必 主な収入源	選択してください	
必 お取引の動機	選択してください	
必 資産運用期間	選択してください	
必 年取及び金融資産	年取: 選択してください 金融資産: 選択してください	
必 ご興味のあるお取引	選択してください	
必 ご投資の経験	株式現物取引 0 年 株式信用取引 0 年 転換社債 0 年	
	※投資経験がない場合は、0年に入ってください ※信用取引口座開設には株式投資経験が必要です。株式現物取引、株式信用取引に年数を記入ください。	
	先物・オプション 0 年 ワラント 0 年 外国証券 0 年	
	貯蓄型投資信託 0 年 その他 投資信託 0 年 債券 0 年	

未入力の項目があります

## 『お前の知ったことか』とは、言えません

投資の方針とか、資金の性格（資金洗浄後のお金でもいいのか）、主な収入源か、取引の動機とか — お前の知ったことか、って思いました。

例えば、自動車ディーラーで、車の購入されている時に、こんな質問されたら、『二度とその店には出向かない』と確信を持って言えます。

そもそも、定年がスコープに入ってきたシニアが、こんなことを始めるとしたら『目の前に見えてきた“お金がない”という現実にとタバタしている』の一択しかないでしょう？ 『その程度のこと、察してくれよ』と思いました。

「ご興味のある取引」という質問に対しては、『どんな取引があるのかすら、知らん』という解答を用意しておけ、と思いました。この画面設計した奴、自分の知識をデフォルトとしていやがる、とムカつきました。

そして、無回答でスルーしようとしても、『未入力の項目があります』とあって、処理を進ませない仕様になっています。

このように腹を立てながら、適当に入力していったのですが — もしかしたら、私も同じようなことやってきたのかもしれないな、とは思いました。



この手のスパムメール的営業が、アカンどころか、ユーザー離れを起こすことは、20年も前から言われ続けてきました。で、現在、どの会社も、いわゆる『AI技術』、『高精度ターゲティング広告』に血道を上げている訳ですが——証券会社は、ネット証券になった今でも、まだ、旧態依然（きゅうたいいぜん）のまま、こんなこと（メール営業）をやっているという、この、絶望的なまでの『ズレ』です。

もしかしたら、証券業界というのは、私が始めて関わったバブルのころから、そのマインドは変わっていないのかもしれない——そんなことを考えていました。

## 1万円で、金融商品を1つ買ってみる

ともあれ、“Hello World アプローチ”を進めるために、私は準備を始めました。

そもそも、「欲しい商品が、自分も分からない」という状態でしたので、『なんでもいいから、1万円で1つの金融商品だけを購入してみよう』でスタートしました。

### ともあれ“Hello World”だ

「なんでもいいから、1万円で1つ(金融商品)だけ買って  
みよう…と思っただけで、出てきた問題



980円の本の中で紹介されていた商品

- 「まあ、人気商品らしいから、これにするか」
- 「後でちゃんと調べてから、変更すればいい」
- 「購入金額以上の損はないだろう」

という程度のノリで、決定

#	直面した問題	手続	その他
1	パスワードが分からん	パスワードの再発行	過去のログとか搜したんだけど発見できなかった
2	運用(実験)資金が“0円”	PayPay銀行からの送金 → とりあえず2万円ほど投入	PayPay銀行→SBI証券は、振込手数料が無料(嬉しかった)
3	優遇制度?	NISA? iDeCo?	金融商品名? プラットフォーム名? 制度名?

### NISA, iDeCoって、何?

「欲しい商品が、自分でも分からない」というのは、なんとも情けない話だと思いますが、まあ、プログラムにおいても、“Hello World”を表示したくて、プログラミングを始める人はいないので、この辺のことは、自分の中でスルーすることにしました。

980円本の中に書いてあった、売れ行きNo.1商品である「eMAIS Slim全世界株式（オールカントリー）」とか言われるものを、買ってみたいと決めて、動き出しました（後述しますが、これ、私の条件では購入できない商品でした）。

せっかく、不快な回答に答えて作った口座でしたので、今回は、SBI証券の口座を使うことにしましたが、いきなり、問題に直面しました。

メールのどこを探してもパスワードが見つからないので、再発行手続きをしなければなりませんでした（これはメールによる2段階認証で、クリアできましたが）。そして、商品を買うお金がないので、これを、銀行（私の場合は、PayPay銀行）から振り込みました。SBI証券への振り込みは無料だったようで、この点はうれしかったです ———— これから、1万円くらいずつ送金するのに、100円以上もお金を取られたら、シャレになりませんので。

そして、ここで私は、今回最大の問題に直面したのです。

—— **NISA, iDeCoって何？**

### 「合法の脱税制度」に直面する

ネットを探し回っていろいろ調べたのですが、はっきりいって、金融商品の紹介ページって、分かりにくいです。まあ、お金の絡むですから、いい加減に記載すると、後でトラブルになるのを恐れてのことだと思いますが ———— それにしても、「読みにくい」。

ならば、後でトラブルになる心配がない、ただのエンジニアであるこの私が、理解した（と思える）ことを、細かいことはバツサリ切り捨てて、説明してみようと思います。

—— **NISA, iDeCoとは、合法的な脱税制度です。**

普通、金融商品で利益を得たら（これを、運用益というのですが）、**2割**を国に税金として持っていかれます。しかし、これが、NISA, iDeCoを使うと**0割**になります。

そして、もう一つだけ大声でつけ加えます。

—— **NISA, iDeCoで、扱える金額はショボくて、その上、期限付きです。**

# NISA, iDeCoって何？(1)

言葉の意味が分らんと、商品が買えないので、  
簡単に調べてみた

名称	一言		特徴
NISA	運用益が 非課税にな る制度 (通常は2 割持ってい かれる)	この制度 の中で、 好きな商 品を買う	年間120万円以上の投資は禁止
つみたて NISA			年間40万円以上の積立は禁止
iDeCo			年間14~80万円以上の投資は禁止 (加入している年金制度に因る)

「投資額リミッター付きの、合法脱税システム」  
…と、思えば、覚えやすいんじゃない？

うーん、NISAもiDeCoも、証券会社のサイトの中に組み込まれた免税専用のAmazonや楽天のようなネットのショッピングサイトのようなものとイメージすると良いかな、と思います。

そのショッピングサイトの中で、指定された金融商品の売買ができて、その利益については、**お上（政府）から、お目こぼしをいただいている、裏サイト（？）**と、私は理解しました — ただ、まだ、私、実際に使っている状態ではないので、単なる推測の域を出ていませんが。

ただ、そんな裏サイトがあれば、全ての金融商品の取引が、そこで行われてしまうことになり、日本の税収は、ボロボロになってしまいます。なので、その裏サイトを使う条件があり — この条件が結構厳しいのです。

投資も投機も、ギャンブルではありませんが、ここでは、あえて「遊ぶ」という言葉を使って、イメージを説明してみたいと思います。

## NISA, iDeCoって何？(2)

で、その「**合法**脱税制度」は、**どういう内容、  
どういう用途で使うの？**

名称	特徴			
	遊べる内容	遊べる期間	遊べるおもちゃ(商品)	狙い
NISA	毎月10万円以内で“遊ぶ”	最長5年間	株式、投資信託、上場信託、不動産信託	個人投資で遊ぶ(短期的)
つみたてNISA	毎月3.3万円以内で“積立てる”	最長20年間	金融庁が『OK』した投資信託	家、車、教育資金にロックオン(中期的)
iDeCo	毎月数万円程度で“遊ぶ”	60歳(定年)+αまで	定期、iDeCo用の信託、保険	定年後にロックオン(長期的)

**運よく、運用益が1億円を越えても、  
100%非課税 → 使わん手はない**

まず、**使える金額がショボい**。NISAで年間120万円、つみたてNISAなら40万円です。例えば、親から1億円とか10億円の相続を受けて、それを、そのまま突っ込める訳ではないのです。**使える期間にも制限がある**ようですし、売買できる商品にも、制約があるようです(国債や、自分の気にいった株式や信託とかを、なんでも購入することができるわけではないようです)。

ただ、**運よく運用益が1億円を越えても、課税なしです。丸々あなたのものになります**—— まあ、「年間120万円の投資で、1億円を作り出せるものなら、やってみろ」、てなもんですが。

まあ、投資素人の私ですから、当然この制度の利用一択です。私は、兜町を震撼させるような株式の専門家になって、大企業を相手に壮絶な仕手戦\*)を展開したいわけではないのですから。

\*) 巨額の利益を得ようとする投資家や投資集団に対して、株式取得の攻防戦を展開すること

とすれば、私の取り得るNISAやiDeCoの戦略は、**どういうものになるのか、考えてみました。**

# 江端の取り得る戦略は？

## NISAとiDeCoのハイブリッド戦略かな？

名称	特徴		
	制度の性質	江端の色々	裁定
NISA	短期的、フレキシブルな投資	お金について、「偉そうに語れる」ようになりたい	お金+プログラミングで遊びたい→採用
つみたてNISA	中期(5~10年)の、動産/不動産の取得	家も車もローンに入っていて、娘(次女)も大学入学済み	不採用 (そもそも、NISAとの併用はできないみたい)
iDeCo	プライベートな老後のお金の積立	60歳越えても働きたい(少なくとも70歳?)	まだ15年弱は、行ける?→採用

調べていると、銀行に預けているのがバカみたいに思えてくるのだが・・・

『若くなく』、『楽しいことがなく』、そして、『今後もそのような予定が1mmもない』そんな私で、加えて、家のローンと、次女の教育費の捻出のために生きている日々ですが——一応、ゴールが目視できる範囲に入ってきました。

とすれば、「つみたてNISA」はスコープから外して良さそうです。そもそも、「NISA」と「つみたてNISA」は併用できないようでした。iDeCoは、定年後の積立てが目的であり、引き出し期間に制限があります。比して、自由度の高い投資ができるのがNISAといったところです。

定年後の準備と、私の「投資」の勉強を、この“合法”脱税制度の中で使おうとすれば、**NISAの一択か、あるいはiDeCoとの併用**が、取り得る戦略になると思います。

それにしても、980円本で、NISAやiDeCoで取り扱っている金融商品パンフレットを見ていると、現在の日本の公定歩合からは銀行にお金を預けているのが、バカみたいに思えてくるほど、低リスクでの安定運用が期待できる数値が、山ほど記載されていますが——**本当かな、これ？**

### 「インデックス型の投資信託」を選んでみる

今回の連載で、私がターゲットにしているのは、「インデックス型の投資信託」というものです。

この商品の内容につきましては、次回以降に御説明しますが、ざっくり言えば、基準となる値(TOPIXやら日経平均やら、ニューヨークダウ)に比例・連動するように、さまざまな債券を組み合わせた金融商品です。

この組み合わせのことをポートフォリオといいます。いろいろな食材(債券)をみじん切りにして、いろいろな種類の食材(債券)みじん切りをたくさん集めて、ハンバーグのように作り

直せば「安心・安全な食品（債券）」として、完成する、という考え方の根幹です。

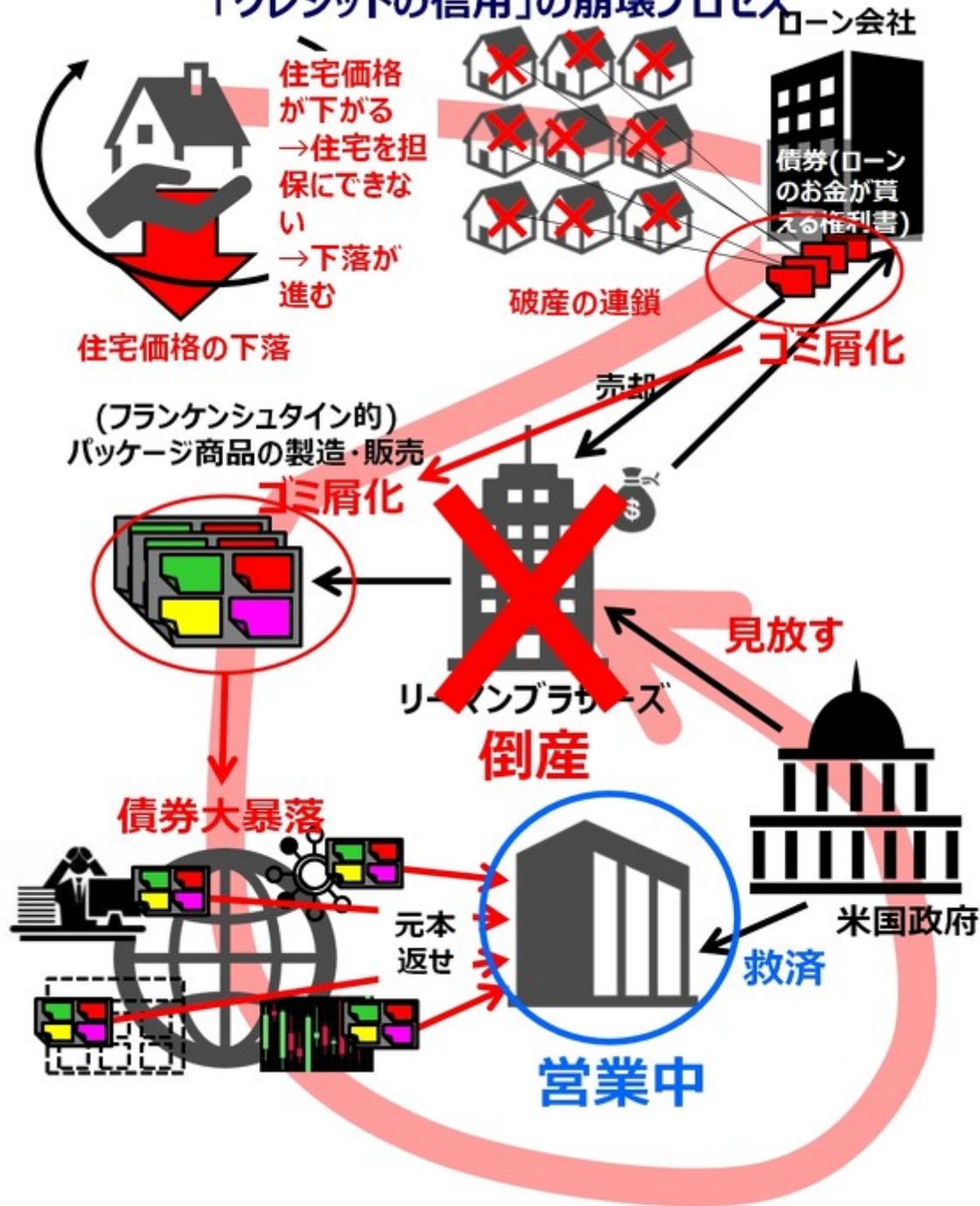
このハンバーグ（複数債券の組み合わせからなる金融商品）、一見、完全無欠、安全・安心な金融商品のように見えます —— よね？

ところが、このみじん切りをやりすぎて、「このハンバーグ、どんな食材でできているの？ まさか、ミミズとか入っていないよね？」と、マーケットが疑心暗鬼に陥り、世界中の投資家が、このハンバーグ（金融商品）を、生ゴミとして、タダ同然の値段で投げ売りを始めたことがありました。—— リーマンショックです。

「日本最高峰のブロックチェーンは、世界最長を誇るあのシステムだった」では、「ミミズ入りハンバーグ」ではなく、「社債のみじん切り + 株式のみじん切り + 証券のみじん切り + サブプライムローン債権のみじん切り（←こいつが、“みみず”） = フランケンシュタイン債券」という説明をしました。

# 既出:サブプライムからリーマンショックへ

## 「クレジットの信用」の崩壊プロセス



「分散型債券は安心」と、素直に言えない理由はここにあります。「分散」は、安全性を高めませんが、同時に、債券の所有者に「何が入っているのか見えない」という不安を与える商品でもあるからです。

そういう意味で、インデックス型の投資信託とは、「何が入っているかは、見えないかもしれないけど、とにかく、基準となるパラメータ（インデックス）と連動する様に設計・運用しているから、その点は安心していいよ」という商品です——逆に言えば、TOPIXやら日経平均やらニューヨークダウが暴落すれば、巻き添え喰らって暴落しますが、それでも、突然「生ゴミ」扱いされて、投げ売りされることにはならない商品、と、私は理解しています。

まあ、どんな金融商品であれ、絶対安全、ということはないのです——とまあ、金融商品について、一通り警告を發しつつ、話を戻します。

## 庶民の預金を投資市場に放り込むワナ

**本当に、NISAやiDeCoは、いいことばかりなのか？** —— バブル景気（1985～1991）で世間が踊りまくっていて、それを横目に苦々しい思いをしつつ、苦学生ながらバブル景気の「おこぼれ」で卒業することができて —— 実際、学費稼ぎのアルバイトは選び放題で、理系大学生の就職求人率は、200倍という空前の売り手市場でした。

そして、その後の、いわゆる『失われた20年』で、さまざまな研究部門の解体・廃止を目にしてきた私にとって、『うまい話には、ウラがある』は、ことわざではなく、現実です。

もう、私がここまでお話して、お分かりになったとは思いますが、**NISAやiDeCoとは、投資に無縁の小金持ちの庶民のなけなしの貯金を、ナチュラルに投資市場に放り込ませるための罠（仕組み）**です。

120万円/年程度の個人投資は、巨大な投資市場から見れば、ゴミくずのようなものですが —— 仮に、国民の8割（1億人）が、貯金から100万円を投資に回せば、実に、**100兆円**ものお金（わが国の一般会計とほぼ同額）が、銀行から引き剥されて、金融市場に投入されることになるわけです。

まあ、そうなると、国民の貯金を抛出根拠としている、赤字国債乱発の「良くないグルグル」の仕組みが壊れてしまって、危うくなってくるような気がします —— まあ、それはさておき。

何度も繰り返して恐縮ですが、**私（江端）は、残り30年を凌げれば、それで良いのです。**このような超短期的かつ、超個人的観点から見た、NISAやiDeCoのリスクをあえて挙げてみると、以下のような感じになります。

## NISAとiDeCoのデメリットは？

いいことばかり書かれていると、疑ってみたくなる

観点	特徴
(1)勤務先の制度との衝突	勤務先の制度(確定拠出年金)とコンフリクト(衝突)していないか心配 →次回以降にハッキリさせます
(2)遅過ぎたスタート	まあ、『遅過ぎた』ことは間違いないが、『遅過ぎた”仲間”』も多いはず →お互い、傷を舐めあうことはできるだろう
(3)他人を信じることができるか	NISAやiDeCoが扱う商品は『信託』、つまり「人(運用者)を信じる」ということ→だが、自分で運用するよりは圧倒的にマシ
(4)『保証』などない	最悪シナリオでは、投資が全額”パー”になる可能性も、ゼロではない

まあ、投資っていうのは、そういうものだろうけど

## “遅すぎたスタート”ではあるけれど……

会社が（というか、国が）、確定拠出年金という制度を導入し、強制的に私の年金を組み込んだ時、私は不愉快の塊でした。人の金を、本人の許可なく勝手に投資に使うとは、なんてエゲつないことするんだ、と憤慨したものです。多分、私は、「同意しました□」にチェックを入れたのだと思います。しかし、**サラリーマンが会社の制度に逆らえると思いますか？**

会社が提供している確定拠出年金に関するオンライン教育の中で、“NISA”や“iDeCo”というキーワードが出てきた記憶があります。個人で勝手に動いて、会社の既存システム（確定拠出年金等）と衝突したら、面倒なことになりそうですので、まず、これ（「**(1) 勤務先の制度との衝突**」）をリスクとして調べておこうと思います。

それと、言うまでもなく「**(2) 遅すぎたスタート**」です。**なぜ、私は中学生の頃からNISAやiDeCoを使い始めなかったのか！** —— 答え：当時そういう制度がなかったからです\*）。

\*）ジュニアNISAという制度がありますが、簡単に言えば、子どもの数だけNISA口座を開けるという、子持ち家族向けの優遇制度で、子どもに投資運用させる、というものではありません（もちろん、教育目的で、子どもに運用させて良いと思いますが）

そもそも、当時、インターネットはもちろん、パソコンもありませんでしたし、なにより「[ジャパン・アズ・ナンバーワン](#)」が、戯言（たわごと）ではない時代だったのです。個人でニューヨーク・マンハッタンのエンパイアステートビルを購入した日本人がいたほどでした。日本人は、将来の心配など1mmもする必要がない —— そんなことを信じられる時代は確かにあったのです（遠い目）。

前回のコラム「[定年がうっすら見えてきたエンジニアが突き付けられた「お金がない」という現実](#)」に書きましたが、この4月から高等教育（高校）金融教育が始まっていますが、これは全く正しいです。**投資の開始は、早ければ早いほど良いのです。**

## 既出:高校から始まる「金融教育」

### 観点は、「お金」の“計画”と“管理”

項目	観点	具体的な内容	江端の所感
内容	家計プランニング	(1)結婚資金、(2)育児/教育資金、(3)住宅取得資金、(4)老後資金、(4)リスク(事故、病気、失業等)に対応資金 —— 等の計画	こっちがユースケースを使った具体例
	家計マネージング	(1)収支のバランス (2)リスクに備えた手段(貯金、保険) —— 等の運用	こちらは基本例

ただ一つ言えることは、高校生に、今の私のような『追い込まれたシニアの気持ち』なんぞ、1mmも分からないだろうな、ということです。なにしろ、つい最近まで、私自身が気付かなかったくらいですから。

それと最近、私がちょっと気になっているのは、「若者を喰いものにする（金融）商品が多そうだな」という点があることです。それを、マスコミ（バラエティ番組等）が煽っているのも心配です。

以下は、最近、若者にウケの良い少額投資をウリにしている、ネット証券の「LINE証券」について、まとめたものです。

## “LINE証券”を、少しでも調べてみた

### 『100円から始められる』の一例

項目	LINE証券
概要	<ul style="list-style-type: none"><li>■ 2019年にLINEがつくった、新しいネット証券。1株数百円から手軽に投資可能</li><li>■ 現在80万口座(2020/8あたりから急増(コロナ禍の影響))</li></ul>
セールスポイント	「初心者の投資への参入障壁を低くする」
特徴	<ul style="list-style-type: none"><li>■ 数百円の資金で株式投資を始めることができる</li><li>■ 予測エンジン、情報の提供などが自動的に行われる</li><li>■ 総じて、株プラットフォームと個人投資家とのP2Pの関係で成り立つ</li><li>■ 小口投資を繰返させることによって、ワンコイン(100円)の手数料で稼ぐビジネスモデル</li><li>■ ターゲットは、スマホを自由に操る、ゲーム感覚の若者世代(10~20代)</li></ul>
その他	純営業収益11億3400万円 最終損失153億3100万円 (令和3年決算広告)

どう評価すればいいのか分らんが、  
「100円から」というワードが“怪しい”

シニアである私は、これまでの人生で「一週間で痩せられる\*1)」「3日で（英語が）しゃべれる\*2)」「10分で分かる人工知能\*3)」が、全てウソであることを知っていて、それを実体験と数値シミュレーションで示してきました。

\*1) 「[今こそ問いたい——そのダイエット、本当に必要ですか](#)」

\*2) 「[英語に愛されない者は何をしていても愛されない、という出発点](#)」

\*3) 「[中堅研究員はAIの向こう側に“知能”の夢を見るか](#)」

そして「100円から始められる投資」にも、どうも同じ匂いを感じてしまうのです。

「100円くらいなら、まあ、缶コーヒーを買ったと思えばいいよね」という、詐欺の決まり文句—— リスクリターン計算なんて、面倒なことは考えずに、「投資をやっている気になる」「投資をやっていると行って、友人にマウント取れる」という、自己承認刺激型のサービスに、ズッポリ嵌っていく若者の姿が見えてしまうのです。

まあ、『余計なお世話だ!』と言われれば、沈黙するしかないのですが。

## われわれシニア予備軍は「美味しいカモ」である

「(3) 他人を信じることができるか」というのは、私にとっては最も難しい課題の一つです。「技術的説明がない／説明ができない人工知能による運用」よりは、人間の運用の方がよっぽど信用できますが、つまるところ、投資信託とは、『**あんたを信じて任せる、頼むよ**』ということです—— 面識もなく、一言も言葉を交したことのない人間に、です。

では、『私たちが運用していま～～す』などとピースしている運用者（私のようなおっさんも入っている）の写真入りの金融商品パンフレットが見たいか—— **いや、見たくない**。それだけで、その金融商品の価値が下落すると思える。バブル期において、自分で運用しようとして、結局、数十万円をドブに捨てたことのある私ですが、ここは割り切るしかないのです。

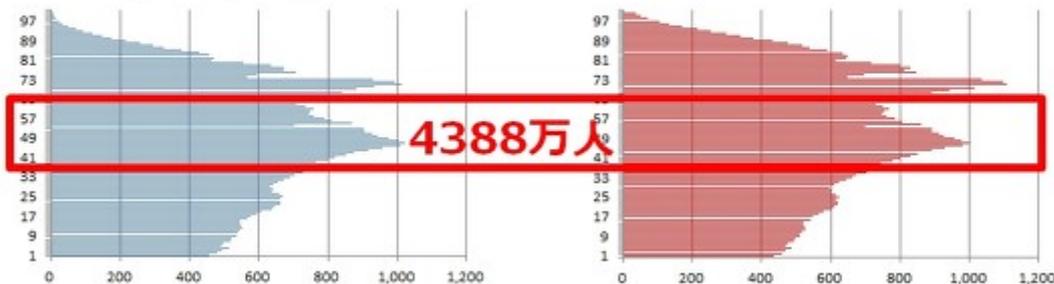
今更ですが、NISAであろうとiDeCoであろうと、「(4) 『**保証**』などない」のです。投資とは、リスクを取って利益を得ることです。元金保証のない商品を選べば、最悪、投資が全て無駄になることだってあるのです。

しかも、私たちシニアは、「金融業界にとって、これ以上もない、美味しいカモ」でもありません。

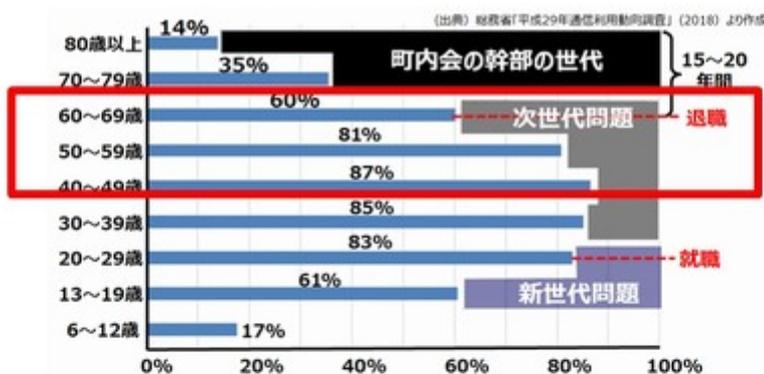
# ネット証券ビジネスの"カモ"たち

ネギを背負っているカモは、誰だ？

(Step.1) シニアとその予備軍の人口を算出



(Step.2) 仮説:「その8割にITリテラシがある」



(Step.3) "カモ"はどれだけいる？

潜在顧客  
約3500万人(ターゲット)

"カモ"は、私(たち)シニア  
(若者だけではない)

しかも、この"カモ"は、若者たちと違って"ネギ"も背負っています(貯金と収入がある、ということ)。私たちは、「喰いものにされる覚悟」とともに、このフィールドに分け入っていかなければならない運命にあるのです(あ、もちろん"強制"ではありませんが)。

江端、まだ着火ならず

ところで、現状の進捗をご報告しますと、まだ"Hello World"に届いておりません。

# ともあれ“Hello World”だ(続き)

## まだ届かない“Hello World”

#	直面した問題	手続	その他
4	NISA口座開設	運転免許の写真やら送っている最中	← いまココ

【SBI証券】NISA口座開設 お申し込み受付のお知らせ 

このたびは、「NISA」の口座開設をお申し込みいただきまして、誠にありがとうございます。

口座開設が完了しましたら、当社WEBサイトのメッセージボックス、またはメール等にてご連絡いたします。

## ネット証券口座と、NISA口座は、 また別モノなのね

それと、コロナ禍の在宅勤務が始まって、使える時間が少なくなりました — これまで、諦めて外注に出していた「プログラム作成」が、自分でできるようになったからです。現在の私は、午後10時から午前2時過ぎまで、ダラダラとコーディングをやって、「コメントが撒き散らされた汚いコード」を、自分のサイトにセッセとアップしています ([筆者のブログ](#))

となると、投資に関する勉強や手続きは、どうしても週末に回ってしまいます。上記のような口座開設の手続のペースと、(現時点では)私の投資に関する低い熱意が、どうしても処理を遅くしてしまっているのは確かです。

正直に申し上げて、**私はまだ点火していません**。金融商品もNISAも投資そのものも、それほど面白いとは思っていないのです。だから、私は、このテーマを連載にして、自分を発火させようともくろんでいるのです。

**楽しいと思えないものは、続かない。続かないものは、うまくいかない** — これは私にとって、ポジティブな方向では「プログラミング」で、ネガティブな方向では「英語」で、証明済みの事実です。

今後、投資について、私が、うっとうしいほどに色々なことを大量にブログに書き始めたら、「江端、着火」と思っていただけで結構です。

□

では、今回の内容をまとめます。

【1】冒頭には、定年後の人生の長さを改めて見直してみたら、**社会人をやっていた期間の50%を越える**ことが分かって、青冷めてしまいました — 無収入の第二の人生が迫っている、という現実に、あらためて恐怖を覚えました。

【2】本連載に関しての、江端のスタンスを説明しました。「残りの自分の人生30年間のことだけを考える。それ以外のことは、知ったことではない」という基本方針を掲げて、「自分の希望する老後のビジョン」、「江端が死ぬまでの、ざっくりした世界／国内／江端家内の経済予測」を表にしてまとめて、その上で、本連載の執筆方針を「金融、投資、100%素人江端の、ドタバタ体験記」とすることに決めました。

【3】投資に関する勉強メソッドとして、コンピュータ言語取得方法の“Hello Worldアプローチ”と同じ方法を採用することとし、最初の目標を、「なんでもいいから、1つだけ金融商品を購入する」として動き出すことに決めました。

【4】ところが、この最初の目標に至るまでに課程で、（1）口座開設のプロセスでムカつき、（2）その後のメール営業の攻勢にキレて、（3）NISAやらiDeCoやらの仕組みが分からず、スタックしてしまいました。そこで、NISAやらiDeCoについての調査を開始して、その結果、これらの制度が、扱える金額がショボくて、期限付ではあるが、合法的な脱税制度である、との所感を得て、その概要を解説しました。

【5】しかし、NISAやiDeCoを使おうとも、投資というものは、どんなに「安全な（金融）商品」を宣伝されても、リスクを離れて存在することができないことを、リーマンショックのサブプライムローン債券の例を出して説明しました。そして、NISAやiDeCoが、投資に無縁の小金持ちの庶民のなけなしの貯金を、ナチュラルに投資市場に放り込ませるための罠（仕組み）である、と記述し、私（たち）シニアが、「ネギ（貯金と収入）をしょった“カモ”であること」を自覚して、行動すべきであると警告しました。

以上です。

## 別の本にウツトリ

冒頭で、資料を探しに、巨大書店（コーチャンフォー）に行った話をしましたが、実は、NISAもiDeCoもすつとばして、私が、夢中になって立ち読みをしていたのは、これらの本です。

## 本屋で見つけた『希望の光』

### 文系の初学者が、プログラミングを学んで、副業する



今からプログラムを学んで月10万円を稼ぐ？  
本当に？

—— ウットリしながら、読み耽（ふけ）ってしまいました。

文系の初心者が、今からプログラミングを覚えて、副業で月10万円稼げる —— 夢のようなお話ではありませんか。しかも、JavaScriptとPythonが使えるだけで良いらしいみたいです。あと、WordPressで、ホームページを作成するだけで、1件5万円だそうですわよ？ 聞きました？ 奥さん。

19歳からプログラミングを始めて、今に至るまで、ずっとプログラムから離れなかった私にとって、JavaScriptとPythonなど、午前中に教本を読んで、午後からコーディングを開始できたくらいですし、WordPressを使ったホームページは、自分の分だけでなく、町内会の分も作っていました（町内会から、金、もらえばよかった）。

なんだ、私の将来、私の頭が正常に動き続ける（例：認知症等の発症前）前なら、安泰じゃなか —— と、ここ最近見たこともないような、ご機嫌な顔をして帰宅した私に、嫁さんはげんな顔をしていました。

では、とくにご覧ください！ 私のこの輝かしいジョブディスクリプションを！！（最近、会社がジョブディスクリプションを書いて提出しろ、とうるさいので、自分でまとめておいたものです）

## 江端が保有しているスキル

### 文系の初学者には「負ける気がしねーぜ」

対象	概要	
ジョブディスクリプション	■地理情報システム (GIS)技術	GISビューアオペレーション、GIS用ライブラリ、GIS DBに関する知識
	■シミュレーション技術	高速化・並列化(C/C++,Go,)、スケールアップ、モデリングに関する知識
	■OS技術	Linuxカーネルハッキング(リアルタイムOS化への改造)
	■データベース技術	PostgreSQL+PostGIS, LiteSQLの構築、プログラム連動方法の知識
	■クラウド/エッジ/サーバ技術	Docker, AWS、サーバ開発/保守、サーバセキュリティ,ラズパイに関する知識、
	■インターフェース技術	Web I/F, Unidy, <b>JavaScript, Python</b> , WebAssemblyに関する知識
	■フィールドLAN技術	EtherCAT, CC-Link, NX-Dlink

でも、この程度の技術者、私の職場や知り合いにゴロゴロいるなあ

文系初学者なんぞに、負ける気がしねーぜと、ちょっといい気になっていました。

ところが、（本当に）たった今、気がついたのですが、私の所属している研究所や、ソフト外注の依頼先には、この程度の技術者は「ゴロゴロ」います —— おおげさではなく、本当に「ゴロ

ゴロ」です。



とすれば、私の競合相手は、文系のプログラミング初学者ではなく、現在、バリバリ、ガリガリ、プログラムを書いている、現役のソフトウェアエンジニアです。そして、考えれば当たり前のことですが、彼らだって、当然、定年後には同じフィールドにやってくるはずですよ。

**全然、ダメじゃん** —— 私の「定年後プログラマー」の構想は、検討前に、崩壊を始めています。

### 「振込手数料0円」というパラダイム

**後輩：**「私の場合、この『お金対策』は5年前にスタートを切っていたのですが、それでも遅かったなあ、と思います」

**江端：**「私のスタートなんか、ここ1~2カ月だよ。完全に出遅れた。今回「100円から～」のネット証券にケチつけたけど、何もしてこなかった私よりは、若い人の方がずっとクレバー（頭がいい）と思う。少なくとも、『なんとかなる』を信じない世代は、強い。圧倒的だ」

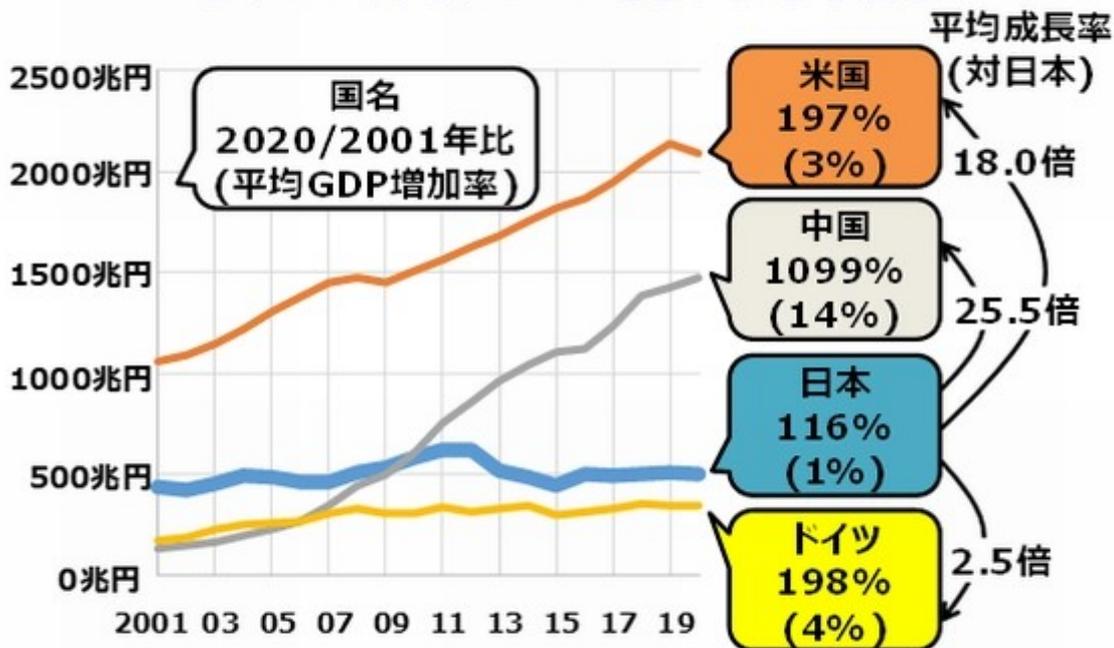
**後輩：**「まあ、江端さんも私も、『右肩上がり』の日本しか見てこなくて、その後の世界を —— まあ、表向きは分かっているつもりだったのでしょーうけど —— 理解できていなかった、ということでしょうね」

**江端：**「そうかな？」

**後輩：**「前回、江端さんが、各国のGDPの成長率についてのグラフにしてみましたけど、中国は別格として、米国、ドイツと比較しても、日本の悲惨さはすごいですよね」

# 既出:株式会社“日本”の業績評価

## この20年間のGDPをざっと見てみた



## 「悲惨」の一言に尽きる

これ、何が違うと思いますか？」

江端：「分からん」

後輩：「米国の投資マインドは、今でも『勝ちに行く』なんです。比して日本の（NISAやらiDeCo）のマインドは『負けないように、死ぬまでの時間を耐えしのぐ』なんです。このマインドだけでも、国内経済に差が出るのは当然ですよ」

江端：「確かに、今回書いたけど、NISAやiDeCoは、投資上限額がショボい上に期間の制限もある『防衛投資』制度だと思う。一体何のために、こんな制度作ったんだろう？」

後輩：「それはかなり明確ですよ。政府は、高校生\*）だけでなく、日本国の成人全員に対して、『100万円の身銭を切って、お金（投資等）の勉強しろ』と言っているんです。加えて、江端さんが言っている「銀行から預金を引き剥がす」も正解です」

\*）関連記事「[定年がうっすら見えてきたエンジニアが突き付けられた「お金がない」という現実](#)」

江端：「……」

後輩：「ところで江端さん。ネットバンク使っていますよね。PayPay銀行でしたっけ？使い勝手はどうですか？」

江端：「トラブル時に不安になることもあった\*）けど、基本的には便利だな。パソコンから一瞬で振込できるし、明細もすぐに表示される。今回、SBI証券への送金も手数料0円だったので、と

てもうれしかった」

\*) [筆者のブログ](#)

**後輩**：「江端さん、問題はそこにあります。今回、江端さんが語るべきだったことは、SBI証券や楽天証券に文句を言うことではなく、『**振込手数料0円**』というパラダイムを語るべきだったのです」

**江端**：「？」

**後輩**：「ネット送金なんて送金台帳の書き換えをやっているだけです。コンピュータがマイクロ秒のレベルで片付けている処理です。ビットコインの解説をした江端さんには釈迦に説法ですが\*)、そもそも、これだけの処理に、手数料を付けるという発想——この考え方自体が『どうかしている』とは思いませんか？」

\*) [関連記事「ビットコインの正体 ~電力と計算資源を消費するだけの“旗取りゲーム”」](#)

**江端**：「そうだなあ。振込手数料の存在意義は、(1) アナログ時代の伝票処理にかかる人件費と、(2) 預金の他行への流出を防ぐ障壁、の2つ？ その辺りかな？ でも、アナログも、そろそろ終わりに向かっているみたいだけだね」

**後輩**：「金融商品を購入しようと銀行の窓口に行くと、『こちらへどうぞ』と、特別な部屋に案内されて、素晴らしい香りのするコーヒーを出された後、『**別の(自行の)金融商品を勧められる**』という目に遭います。あの下らない手続きのコストを、私たちは支払わされているんですよ」

**江端**：「ああ、その手の話、インターネットでもあったなあ。i-modeとかEZwebとかJ-SKYとか、インターネットテレビのポータルサイトとか、回線を持っている会社やテレビ局が、必死で顧客囲い込みかけていたなあ……\*)」

\*) 当時は、研究所でさえ「**ダークファイバーの一般開放**」などと口にしたら、首を締められかねない雰囲気でした(本当)。

**後輩**：「ちょっと前に、FinTechとかで、分散台帳管理やら、仮想通貨(暗号資産)やら、ブロックチェーンやら、まあ、いろいろ騒がれていましたが、バカバカしい。**FinTechとは、つまるところ「振込手数料0円」のことです。**これがイノベーションであり、パラダイムシフトです」

**江端**：「……」

**後輩**：「しかるに、FinTechに関係する研究を担っていたはずの江端さんでさえ、**いまだに「振込手数料が有料」という銀行のサービスがまかり通っている世界を、理不尽も、怒りも、疑問もなく受けいれている、という事実が大問題です。**『手数料0円だったので、とてもうれしかった』など、寝ぼけたこと言っていることが、その証左です」

**江端**：「あ……」

**後輩**：「つまるところ、江端さんでさえ、『**右肩上がりの日本**』という固定概念から、**抜け出せていないのですよ**——ネット銀行とネット証券がコスト0円につながり、自宅のPCやスマホから

金融商品を購入することができる当たり前の世界の実現こそが、イノベーションです」

江端：「……」

後輩：「そして、（一部の若者を除いて）日本人のほとんどが、そのパラダイムに気が付かないまま、旧態依然の世界観にドップリつかって生きていることを、このコラムでは問題にしなければならなかったはずなんです」

江端：「それって『銀行不要論』の話？」

後輩：「お金の管理主体としての銀行は絶対に必要ですが、店舗は不要でしょう。ATMも、クレカや電子マネーで不要となっていくでしょう……というか、現在進行形でそうなっていますけど」

江端：「ネット銀行があれば十分、ということだよな。でもね、私は、銀行窓口の存在意義って、『怒鳴り込み先、泣き付き先に“人間がいる”』ということだと思っただよな」

後輩：「それは認めるところですが……もはや、窓口で怒鳴り込むとか、窓口で泣きつく、とかいう考え方自体が、なくなっていくかもしれませんよ」

ちなみに、地方銀行に勤務している私の姉は、『消滅していくアナログ世代の、最期の見届け人』を自称しています——希少野生生物の最期の一体をみとる保護管理人のようで——何か、カッコいいです。



## Profile

江端智一（えばた ともいち）

日本の大手総合電機メーカーの主任研究員。1991年に入社。「サンマとサバ」を2種類のセンサーだけで判別するという電子レンジの食品自動判別アルゴリズムの発明を皮切りに、エンジン制御からネットワーク監視、無線ネットワーク、屋内GPS、鉄道システムまで幅広い分野の研究開発に携わる。

意外な視点から繰り出される特許発明には定評が高く、特許権に関して強いこだわりを持つ。特に熾烈（しれつ）を極めた海外特許庁との戦いにおいて、審査官を交代させるまで戦い抜いて特許査定を奪取した話は、今なお伝説として「本人」が語り継いでいる。共同研究のために赴任した米国での2年間の生活では、会話の1割の単語だけを拾って残りの9割を推測し、相手の言っている内容を理解しないで会話を強行するという希少な能力を獲得し、凱旋帰国。

私生活においては、辛辣（しんらつ）な切り口で語られるエッセイをWebサイト「[こぼれネット](#)」で発表し続け、カルト的なファンから圧倒的な支持を得ている。また週末には、LANを敷設するために自宅の庭に穴を掘り、侵入検知センサーを設置し、24時間体制

のホームセキュリティシステムを構築することを趣味としている。このシステムは現在も拡張を続けており、その完成形態は「本人」も知らない。

**本連載の内容は、個人の意見および見解であり、所属する組織を代表したものではありません。**

Copyright © ITmedia, Inc. All Rights Reserved.

